「Rakusai Living Lab」

ナレーション

【00:00　オープニング】
京都市 洛西ニュータウン。
令和 8 年にまちびらき 50 周年を迎えるこのまちがいま、“次の 10 年”へ向けて、動き出しています。
「未来の洛西を、暮らしの中で試しながら形にしていく取り組み――それが『リビングラボ』です。

【00:30　「洛西グランドデザイン 2033」の紹介】
京都市は 2023 年、2033 年の洛西ニュータウンの姿を示す『洛西グランドデザイン 2033』をまとめました。
10 年後の洛西の将来をイメージし、「もしかしたらこうなってる？」、「こんな人が暮らしている？」という仮説を立て、描かれたビジョンです。
このビジョンに描かれた活動を実際に試していく場として始まったのが『リビングラボ』です。

【01:07　リビングラボの概要】
リビングラボは、一言でいえば“暮らしを使った試み”。
『こんな店があったら』『こんな働き方ができたら』そんな声を、まずは小さく形にして試してみる。
行政だけでなく、地域も暮らしの中で実際に試していく――その役割を担うのが、リビングラボです。
リビングラボは、ラクセーヌ 1 階の空き区画を活用。タウンセンターの中心で様々な人が行き交うこの場所が舞台です。

【01:47　運営者へのインタビュー】
今回、ニュータウン再生の取り組みに詳しい高松さんも参加しています。

（以下、運営者へのインタビュー内容）
「50 年経つこの洛西ニュータウンが、ぼちぼち街が更新されていくっていう時期で、特にこのタウンセンターエリアをどう変えていくか。公園と広場、ラクセーヌを含めてどう変えていこうか。

2033 年の未来を先行的に、実験的にやってみるっていうことを一つ軸にして、今年もやっています。」
（運営者へのインタビュー内容終わり）

【02:22　リビングラボで行われる「暮らしの質を高める小さな仕掛け」】
リビングラボで行われる実験は、『暮らしの質を高める小さな仕掛け』を、まず形にしてみること。“暮らしの中に新しい選択肢を増やす”ための実験です。

たとえばこちら。期間限定の“カフェ＆コワーキング”。コーヒー片手に仕事をしたり、立ち寄って会話が生まれたり。日常の延長に、小さな交流の場ができました。

出窓を“まちの美術館”に変えた『でまどのまどか』。
団地の窓から見える風景や、地域の日常を切り取った写真を展示し、通りがかる人の足を止めました。

大原野産いちごを使った、期間限定のクラフトビール。
地域の農家と協力し、味や香りを何度も試しながら完成しました。
ひと口目にふわっと広がるいちごの香りと、すっきりとした飲み口が特徴です。
『いちごの香りが広がる』『飲みやすい』と好評で、おかわりする人も多かったそうです。

“DJ の雑談が聞こえてくる”公開ラジオや、音楽イベント。アート作品。
若い世代のミュージシャンやアーティスト、住民が自由に表現し、語り合う、まちの新しい楽しみ方です。

【03:54　リビングラボの魅力】
リビングラボの魅力は、“市民がまちの主役になる”こと。
政策や制度だけでは生まれないアイデアが、ここからいくつも動き始めています。
新しい働き方。若い世代の挑戦。地域の魅力を活かしたチャレンジショップや、名産づくり。
この街で、それぞれの『やってみたい』が動き出しています。

（以下、運営者へのインタビュー内容）
「今まで洛西らしくないねって言ってくださる方も多いんですけど、それ結構嬉しくて。やりたい方がいるから実験もできるし、そういう形なんじゃないかと思っています。」
（運営者へのインタビュー内容終わり）

未来のまちは、特別な場所からではなく、いつもの暮らしのそばから動き始めます。
未来の洛西をつくるのは、今日の小さな一歩。リビングラボの「実験」で生まれた新たな取り組みが、まちを変えていきます。